

メルトガニを愛知県田原市高松沖から採集

西 浩孝*・安井謙介*・坂本博一*・松岡敬二*

Mertonia lanka collected by bottom trawling from off Takamatsu, Tahara City,
Aichi Prefecture, central Japan

Hiroataka Nishi*, Kensuke Yasui*, Hirokazu Sakamoto* and Keiji Matsuoka*

はじめに

メルトガニ（メルトンガニ）*Mertonia lanka* Laurie, 1906 は、ケブカガニ科 Pilumnidae に属し、スリランカをタイプ産地とするカニである。国内では相模湾、伊豆半島、小笠原諸島、伊勢湾湾口部（三重県鳥羽市沖）、紀伊半島（潮岬）、土佐湾、瀬戸内海、鹿児島湾に分布するとされる（酒井, 1976；武田, 1979；武田ほか, 2000；丸村・小阪, 2003；締次ほか, 2017）。しかし、愛知県からはこれまで記録がなかった（愛知県, 1985；中島, 1997, 2005）。

著者らは2020年12月21日および2021年2月22日、愛知県田原市高松海岸沖において底曳き網による調査を実施した。田原市高松海岸沖約5.3 kmの遠州灘の海底には、大陸棚上に高松ノ島として知られる海丘状の高まりが知られており（海上保安庁, 1971）、付近の海底には小さな岩礁が点在している。

2021年2月22日の調査で、高松海岸沖においてメルトガニが採集されたので、ここに報告する。

方 法

調査場所は愛知県田原市高松町一色沖の海域である（第1図）。水深は約20～30 mである。

調査は2020年12月21日および2021年2月22日の2回実施した。西三河漁業協同組合所属の底曳き網漁船「玄海丸」（総トン数11トン）により、時速9 km程度の船速で底曳きを行い、網に入った岩石および底生生物を採捕した（特別採捕許可証番号：2特第845-1号）。使用した網は改良備前網で、網口を開口させるビーム（はり）の長さは約550 cm、ビームと網の間には魚起チェーン（海底に接地することにより底生魚を離底させて網に入りやすくするための金属製チェーン）が装着されている。12月21日には10回、2月22日には11回、それぞれ約15分間網を曳いた。1回目の調査では全種について原則全個体を採集し、2回目の調査では1回目の調査で未確認の種を中心に採集した。採集された甲殻類は、一種につき数個体ずつ70%エタノール液浸標本を作成した。種の同定は、カニについては酒井（1976）、その他の甲殻類については岡田（1965）および三宅（1982）に従った。上位分類および学名は基本的に WoRMS（World Register of Marine Species: <https://www.marinespecies.org>, 2022年2月4日閲覧）に従った。

結果と考察

[標本]

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

Corresponding author: Hiroataka Nishi. E-mail: nishi.hiroataka@gmail.com

原稿受付 2022年2月4日. Manuscript received Feb 4, 2022.

原稿受理 2022年3月3日. Manuscript accepted Mar. 3, 2022.

キーワード: メルトガニ, メルトンガニ, 甲殻類, カニ, 渥美半島沖, 遠州灘.

Key words : *Mertonia lanka*, Crustacea, crab, off Atsumi Peninsula, Enshu-nada.



第1図. 調査海域. 地理院タイルに調査海域を追記して掲載.

メルトガニ *Mertonia lanka* Laurie, 1906

標本：1 個体（第2 図；豊橋市自然史博物館甲殻類資料 TMNH-C-83），2021 年 2 月 22 日，西 浩孝採集。雌で甲長 7.4 mm，甲幅 9.9 mm であった。

今回の遠州灘における本種の記録は、これまで知られていた生息地である伊豆半島（酒井，1976）と伊勢湾湾口部（締次ほか，2017）の間に存在した分布の空白域の一部を埋めるものとなる。

メルトガニのほか，2 回の調査によって第1 表の甲殻類が合わせて採集された。ソデカラッパ *Calappa hepatica* (Linnaeus, 1758) やトラフカラッパ *Calappa lophos* (Herbst, 1785) は砂底，イボガザミ *Portunus (Monomia) gladiator* Fabricius, 1798，ヒメモガニ *Pugettia minor* Ortmann, 1893，ワタクズガニ *Micippa thalia* (Herbst, 1803)，サナダミズヒキガニ *Latreillia valida* (De Haan, 1839)，フタハカラッパ *Calappa bicornis* Miers, 1884 は砂・砂泥・貝殻底などに生息する種である（三宅，1983）。また，2 回の調査では底曳き網に礫や貝殻がかかった。これらのことから，調査地の底質は礫や貝殻混じりの砂質であることが推測される。

締次ほか（2017）は，メルトガニの採集地において軟体動物をはじめとする底生動物が非常に少なかったことから，本種の生息水域は有機質が堆積しにくい環境で，餌となる有機物が著しく少ないと推測している。今回，メルトガニが採集されたのと同じ網で採集された底生動物は記録を取っていないが，調査海域全体では底生動物は少なくなかった（西ほか，2022）。この

ことから，本種の生息水域は必ずしも有機物が著しく少ない環境とは限らない可能性が考えられる。

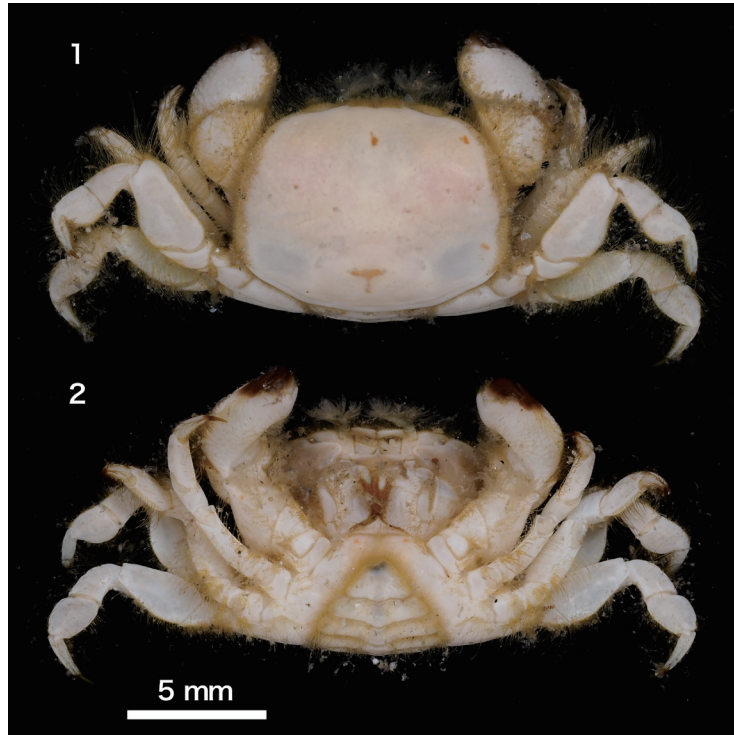
謝 辞

西三河漁業協同組合所属底引き網漁船「玄海丸」船主の寺田義行氏，愛知県外海漁業協同組合長の吉武正康氏，有限会社松本潜水の松本成広氏，豊橋市自然史博物館資料整理ボランティアの岩崎員郎氏には，調査に際し多大なご協力をいただいた。琉球大学理学部の佐藤大義氏にはメルトガニを写真により同定していただいた。記して感謝申し上げる。

本研究は，公益財団法人藤原ナチュラルヒストリー財団 2019 年度（第 28 回）学術研究助成による調査（助成対象者：安井謙介，研究課題：日本移入期におけるナウマンゾウの実態の解明）の一環として行ったものである。

引用文献

- 愛知県，1985. 愛知県の自然環境—1984. 愛知県，名古屋，278 p.
- 海上保安庁，1971. 沿岸の海の基本図（5 万分の 1），渥美湾。海上保安庁，東京。
- 丸村真弘・小阪 晃，2003. 永井誠二コレクションかに類標本目録。和歌山県立自然博物館，海南，74 p.
- 三宅貞祥，1982. 原色日本大型甲殻類図鑑（I）。保育社，大阪，vii + 261 p.
- 三宅貞祥，1983. 原色日本大型甲殻類図鑑（II）。保育社，大阪，



第2図. メルトガニ (TMNH-C-83).
1, 背面; 2, 腹面.

第1表. 愛知県田原市高松沖から採集された甲殻類.

科	種名	個体数および登録番号	
		2020. 12. 21	2021. 2. 22
フジツボ科	サンカクフジツボ <i>Balanus trigonus</i> Darwin, 1854	26 (TMNH-C-89)	
フジツボ科	アカフジツボ <i>Megabalanus rosa</i> Pilsbry, 1916	1 (TMNH-C-104)	
クルマエビ科	クマエビ <i>Penaeus semisulcatus</i> De Haan, 1844	2 (TMNH-C-90)	
クルマエビ科	アカエビ属の一種 <i>Metapenaeopsis</i> sp.	4 (TMNH-C-102)	
セミエビ科	ウチワエビ <i>Ibacus ciliatus</i> (von Siebold, 1824)		1 (TMNH-C-84)
コシオリエビ科	コシオリエビ属の一種 <i>Galathea</i> sp.	2 (TMNH-C-91)	
ヤドカリ科	トゲツノヤドカリ <i>Diogenes edwardsii</i> (De Haan, 1849)	1 (TMNH-C-92)	
ヤドカリ科	イボアシヤドカリ <i>Dardanus impressus</i> (De Haan, 1849)	2 (TMNH-C-93)	
ヤドカリ科	イシダタミヤドカリ <i>Dardanus crassimanus</i> (H. Milne Edwards, 1836)	1 (TMNH-C-94)	
ガザミ科	イボガザミ <i>Portunus (Monomia) gladiator</i> Fabricius, 1798	4 (TMNH-C-96)	
ガザミ科	ベニツケガニ属の一種 <i>Thalamita</i> sp.	1 (TMNH-C-103)	
モガニ科	ヒメモガニ <i>Pugettia minor</i> Ortmann, 1893		1 (TMNH-C-85)
ケアシガニ科	ワタクズガニ <i>Micippa thalia</i> (Herbst, 1803)	1 (TMNH-C-95)	1 (TMNH-C-86)
ミズヒキガニ科	サナダミズヒキガニ <i>Latreillia valida</i> (De Haan, 1839)		1 (TMNH-C-87)
ケブカガニ科	メルトガニ <i>Mertonia lanka</i> Laurie, 1906		1 (TMNH-C-83)
カラッパ科	フタハカラッパ <i>Calappa bicornis</i> Miers, 1884	1 (TMNH-C-97)	
カラッパ科	マルミカラッパ <i>Calappa pustulosa</i> Alcock, 1896	1 (TMNH-C-98)	
カラッパ科	ソデカラッパ <i>Calappa hepatica</i> (Linnaeus, 1758)	5 (TMNH-C-99)	
カラッパ科	トラフカラッパ <i>Calappa lophos</i> (Herbst, 1785)	6 (TMNH-C-100)	4 (TMNH-C-88)
ヒシガニ科	ヒシガニ <i>Enoplolambrus validus</i> (De Haan, 1837)	1 (TMNH-C-101)	

viii + 277 p.

中島徳男, 1997. 三河湾・遠州灘産海産蟹類目録. 自費出版,
40 p + 27 pls.

中島徳男, 2005. 遠州灘の蟹類. 自費出版, 36 p + 10 pls.

西 浩孝・安井謙介・坂本博一, 2022. 愛知県田原市高松沖に
おいて底曳き網により得られた軟体動物. 豊橋市自然史博
物館研究報告, (32) : 65-73.

岡田 要, 1965. 新日本動物図鑑 [中]. 北隆館, 千代田区, 803 p.

酒井 恒, 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京, 日本語版 461 p,
英語版 773 p, 図版 251 p.

締次美穂・佐藤達也・木村昭一, 2017. メルトガニ (三重県
初記録種) を鳥羽市石鏡沖より採集. 南紀生物, 59 (2) :
160-162.

武田正倫, 1979. ドレッジにより得られた潮岬周辺のカニ類.
国立科学博物館専報, (12) : 151-157.

武田正倫・酒井勝司・篠宮幸子・須賀秀夫, 2000. 瀬戸内海産
カニ類. 国立科学博物館専報, (33) : 135-144.